

歯科の特性に着目した愛知県歯科医師会主導での肝炎対策

研究分担者：井上 貴子 名古屋市立大学病院 中央臨床検査部
研究協力者：加藤 正美、浅田 一史、内堀 典保 愛知県歯科医師会
研究協力者：渋谷 恭之、近藤 茂樹 名古屋市立大学大学院医学研究科 口腔外科学

研究要旨：2017年秋、名古屋市立大学病院の地域連携医療機関を対象に行ったアンケート調査から、歯科医師は肝炎患者を専門医に紹介しづらいことが推測された。さらに行った地域連携歯科医療機関に限定したアンケート調査から、歯科クリニックでは肝炎検査実施が困難で、患者への問診から情報を入手していることがわかった。2018年3月、愛知県歯科医師会と名古屋市立大学病院は、歯科医師主導で肝炎啓発事業を開始した。その中心である歯科医師会主催の講習会では、肝臓専門医に加えて歯科医師も肝炎対策を指導する。開始2年後、効果検証のアンケートを行った。講習会未受講者と比較して受講者は継続受講を希望し、肝炎患者を医師に紹介し（ともに $p < 0.001$ ）、標準予防策を実施する傾向であった（ $p = 0.01$ ）。

今年度愛知県歯科医師会はさらに事業を発展させ、肝炎医療コーディネーター養成講習会を主催し、94名の歯科医師が肝炎医療コーディネーターとして認定された。さらに本講習会を通じて肝炎啓発における歯科医師の新たな役割が明らかとなった。歯科領域においては、まず標準予防策や正しい知識の徹底を目指し、講習会を継続して開催することで啓発効果が期待できると考えられる。

現在これまでに得た情報を基に、現在広島県歯科医師会で事業の水平展開を開始している。今後、歯科領域でさらに有効な肝炎対策を考案する。

A. 研究目的

ウイルス性肝炎の治療は進歩し、肝臓専門医による適切な治療・経過観察で予後の改善が可能となった。一方、非肝臓専門医からのウイルス性肝炎患者紹介は滞り、患者紹介率の改善が課題である。非肝臓専門医の専門性ごとに、特殊性を考慮した有効で実現可能な対策を講じる必要がある。

日本歯科総合研究機構 国民に対する「かかりつけの歯科医」に関する調査報告書（2015年）によると、市民の84.4%にかかりつけ歯科医があり、多くの人が歯科を受診していることが分かる。

名古屋市立大学病院では2017年秋、地域連携医療機関を対象に肝炎に関するアンケート調査を行った。その結果から、歯科医師が肝炎患者を専門医に紹介しづらい状況にあることが推測された。次に歯科に限定した調査を行い、その結果を基に2018年4

月より、短時間で記載できる「歯科版・肝炎用診療情報提供書」の運用を開始した。

2018年3月、愛知県歯科医師会と名古屋市立大学病院は協働して歯科領域での肝炎啓発を開始し、①歯科医師会主催の講習会開催、②「針刺し事故マニュアル」の改訂、③「肝炎下敷き」の作成、④肝臓専門医に関する情報提供、⑤簡易版診療情報提供書の導入、⑥歯科領域での肝炎医療コーディネーター（肝Co）の養成などを行ってきた。連携を開始して2年以上が経過したため、2020年7月、これまでの活動の評価と今後の活動方針決定のために、愛知県歯科医師会員を対象にアンケート調査を行った。その結果、歯科医師会主催の肝炎に関する講習会は歯科医師の啓発に有効であることが分かった。

今年度は初の試みとして、愛知県歯科医師会・研究班主催、愛知県共催で肝Co養成

講習会を開催した。

本報告書では今年度論文化された前年度までの成果を概説し、今年度の成果、特に肝Co講習会から明らかとなった肝炎対策における歯科医師の新たな役割について提案する。

B. 研究方法

1) 地域連携医療機関を対象とした肝炎に関するアンケート調査

調査期間と対象

調査期間は2017年10月、対象は当院の地域連携医療機関1,628施設である。

方法

アンケートは、当院地域連携センターから他の目的の書類とともに郵送された。回答は肝疾患センターにFAXで返信とした。

2) 歯科の地域連携医療機関を対象とした肝炎に関するアンケート調査

調査期間と対象

調査期間は2017年12月、対象は当院の地域連携医療機関（歯科）323施設である。

方法

アンケートは、研究分担者から直接地域連携医療機関（歯科）へ郵送された。アンケートの目的・問い合わせ先を明記した添え状とアンケート用紙のみを郵送し、回答は肝疾患センターにFAXで返信とした。

3) 愛知県歯科医師会との肝炎対策と事業開始2年後のアンケート調査

当院歯科口腔外科から愛知県歯科医師会を紹介してもらい、同会学術部・医療管理部と連携し、まずは歯科医師の肝炎に関する知識や認識を刷新することを目指して、可能な肝炎対策を順次導入した。

- ① 愛知県歯科医師会主催の講習会開催：各地区の学術担当会員・郡市区歯科医師会会長を対象に講習会を企画し、肝炎の最新情報を提供する。

- ② 郡市区歯科医師会主催の講習会開催：歯科医師会員を対象に、肝炎の講習会を開催する。クリニックで働く歯科医師に有用と思われる情報（ウイルス性肝炎最新治療、HBワクチン接種の重要性、標準予防策など）を提供し、講習会後は意見交換を行う。

- ③ 針刺し事故マニュアル（図1）の改訂：愛知県歯科医師会学術部とともに、針刺し事故の際に役立つ情報をまとめ、旧マニュアルからの改訂を行った。

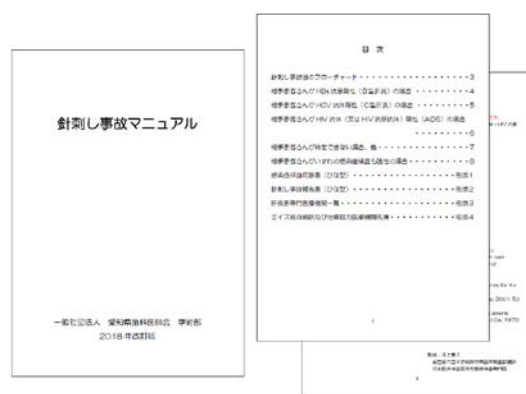


図1 針刺し事故マニュアル

- ④ 「肝炎下敷き」(図2)の作成：愛知県歯科医師会学術部・医療管理部とともに歯科クリニックで使用される資材として作成し、2019年12月全会員に配布した。チェアサイドですぐに知りたい情報を掲載し、明るいデザインとした。

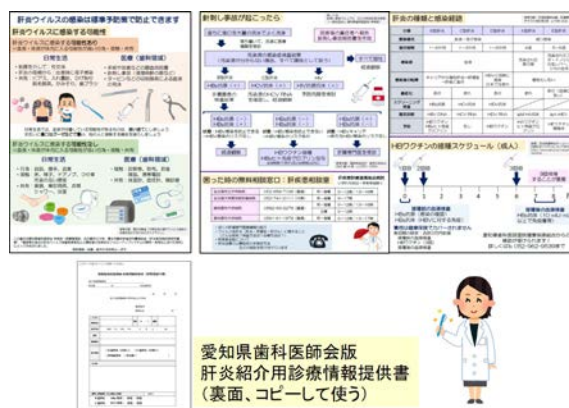


図2 「肝炎下敷き」

肝炎ウイルスに感染する行為・しない行為、針刺し事故時のフローチャート、県内の肝疾患診療連携拠点病院の連絡先、HBワクチンの接種スケジュールなどについて掲載、裏表紙に「肝炎用診療情報提供書」を配置

- ⑤ 肝臓専門医療機関に関する情報提供 (図 3) : 歯科口腔外科と肝臓専門医が併存する県内の医療機関を調べ、日本肝臓学会の専門医リストを改変した一覧を作成した。



図 3 歯科と肝臓専門医併設の医療機関リスト (抜粋)

歯科から肝臓専門医に紹介しづらい場合：歯科(クリニック)から歯科(病院)に紹介した後、併設する肝臓専門医に紹介

- ⑥ 愛知県歯科医師会員を対象とした肝炎に関するアンケート調査

調査期間と対象

調査期間は 2020 年 7 月、対象は愛知県歯科医師会員 3,902 名である。

方法

アンケートは愛知県歯科医師会から郡市区歯科医師会へ郵送され、各歯科医師会員に配布された(図 4)。回答は愛知県歯科医師会に FAX で返信とした。



図 4 愛知県歯科医師会員へのアンケート (A4 1枚)

- 4) 「令和 3 年度愛知県肝 Co 養成講習会」の開催とアンケート調査

時期と対象

2021 年 9 月 12 日、愛知県歯科医師会・研究班共同主催、愛知県共催で「令和 3 年度愛知県肝 Co 養成講習会」を開催した。開催概要は行政機関や医療機関に広く周知し、歯科領域以外からの受講者も募集した。

方法

講習会の講師は歯科医師 3 名、医師 5 名、愛知県職員 1 名が担当した。歯科医師は特に歯科領域で求められる知識として、標準予防策の重要性・歯科領域での肝疾患患者との関わり・肝 Co としての歯科医師の役割について講習を行った(図 5)。



図 5 愛知県歯科医師会・研究班主催「愛知県肝 Co 養成講習会」プログラム

講習会后、参加者 159 名を対象に、参加した動機や今後の活動方針などについてのアンケート調査を行った。回答はインターネットを使用し、QR コードまたは URL から返信とした。

C. 研究結果

- 1) 地域連携医療機関を対象とした肝炎に関するアンケート調査 (要点のみ)

アンケート送付数 1,628 施設、回答数 183 施設で、回答率 11.2%であった。

No.	Q1	Q2	Q3-専門	Q4-HBV	Q4-HCV	Q5-HBV	Q5-HCV
	年代	性別	肝臓専門医/非肝臓専門医	患者数	患者数	新規陽性者を紹介するの	新規陽性者を紹介するの
26	30	男	非肝臓専門医	10名以上	10名以上	しない	しない
63	60	男	非肝臓専門医	10名以上	10名以上	しない	しない
89	30	男	非肝臓専門医	数名	数名	しない	しない
103	50	男	非肝臓専門医	分からない	分からない	場合により	場合により
122	40	男	非肝臓専門医	数名	数名	しない	しない

Q7-紹介しない理由						
患者が断る	紹介先が分からない	自院で対応可	今まで紹介しなかった	時間が無いから	知らないから	その他
						口頭で指示します

自由記載欄:
 歯科医師は置き去りにされている知識を得る機会がほしい
 歯科医師向け講演会が少ない

→ 歯科に限定した2回目のアンケート

表1 歯科5施設の回答

歯科5施設の回答を表1に示す。歯科医師は肝炎患者の存在を把握しているが、専門医に紹介しづらいことが推測された。歯科の状況を詳細に知るために、次のアンケートを行った。

2) 地域連携医療機関(歯科)を対象とした肝炎に関するアンケート調査(要点のみ)

アンケート送付数 323 施設、回答数 203 施設で、回答率 62.8%であった。

- ・「自院で肝炎検査をしているか」検査していないと回答した施設が 97.0% (197/203) で、保険制度から歯科クリニックでの肝炎検査実施は難しいことがわかった。
- ・「肝炎患者が何名くらい通院しているか」数名 48.2% (96/199)、10 名程度 14.0% (28/199)、10 名以上 16.1% (32/199) を合わせて 78.3%の施設が肝炎患者の通院を把握していることがわかった(図6)。

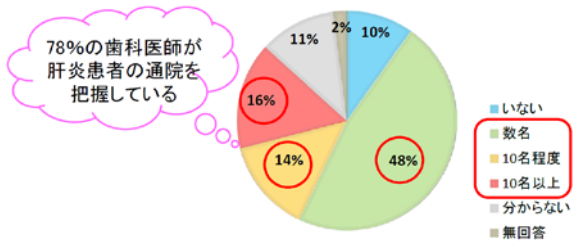


図6 肝炎患者が何名通院しているか

・「肝炎患者紹介に必要なこと」複数回答で、簡便な診療情報提供書 41.3 (45/109)、

専門医療機関の情報32.1% (35/109)、患者説明用資材29.4% (32/109)、歯科医師の教育・啓発18.3% (20/109) の回答が多く、これらは実現可能と考えられた(図6)。

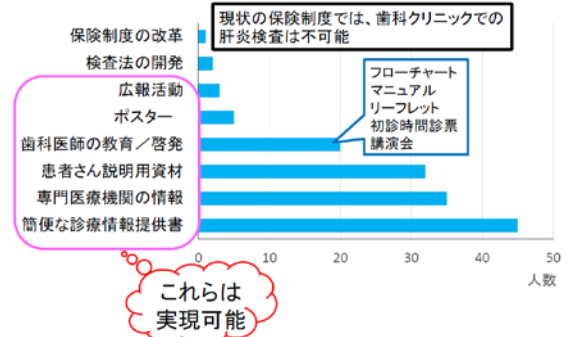


図6 肝炎患者紹介に必要なこと

アンケート結果に基づく医療連携

肝炎紹介に必要なこととして、簡便な診療情報提供書が多く挙げられた。そのため当院では2018年4月より、短時間で記載できる「歯科版・肝炎用診療情報提供書」の運用を開始した(図7)。

図7 歯科版・肝炎用診療情報提供書(名古屋市立大学病院、2018年4月～)

3) 愛知県歯科医師会を対象とした肝炎に関するアンケート調査(要点のみ)

アンケート送付数 3,902 名、回答数 902 名で、回答率 23.1%であった。

① 集計結果

・「年齢 (n=902)」40代 203名、50代 233名、60代 300名が回答し、回答者全体の81.6% (736/902) を占めた。愛知県歯科医師会員の年齢分布から、30~60代の回答率が高いことが分かった(図8)。

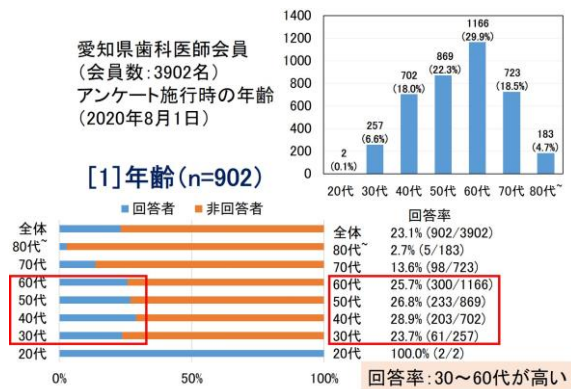


図8 愛知県歯科医師会員年齢分布と回答率

・「肝炎の講習会への出席の有無 (n=902)」出席したことがあるのは 23.5% (212/902) であった (図9)。

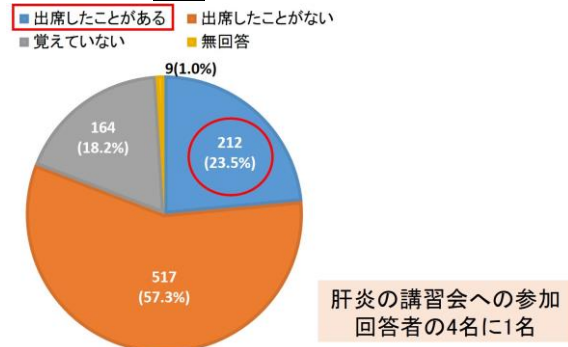


図9 過去2年間に肝炎の講習会・講演会に出席したことはあるか

・「肝Co養成講習会に参加したいか(n=902)」18.8% (170/902) が参加したいと答えた (図10)。

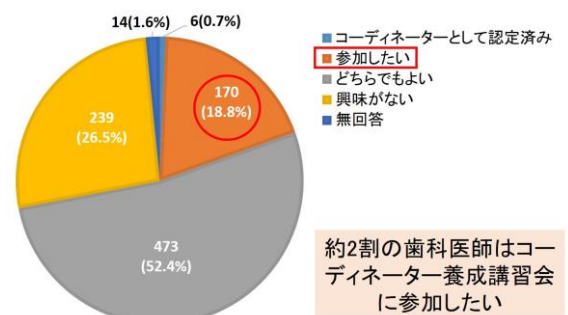


図10 肝Co養成講習会に参加したいか

②サブグループ解析 (肝炎の講習会・講演会への出席の有無で分類)

回答者 902 名から無回答・覚えていないと回答した 173 名を除外し、出席したこと

がある (受講済み) 212 名、出席したことがない (未受講) 517 名の 729 名を解析対象とした。

・30~50代の歯科医師を中心に講習会を受講している (n=729) (図11)。

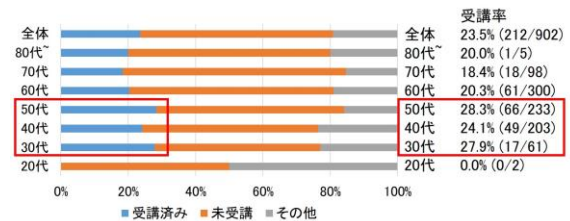


図11 年代

・講習会受講済みの歯科医師は患者さんの全身状態を把握するために肝疾患に関する問診を行う傾向にある (p=0.094) (図12)。

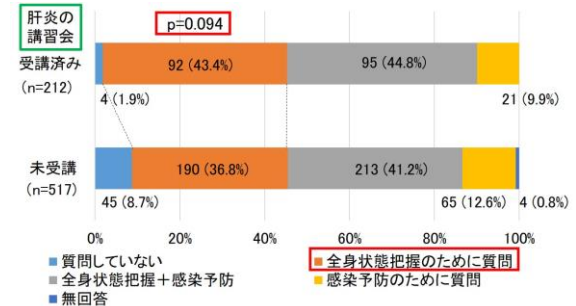


図12 肝炎既往に関する問診

・講習会受講済みの歯科医師は肝炎に関して全般的に興味を持つようになる。特に HBV 再活性化、肝臓専門医への紹介基準、愛知県の肝炎検診の現状、肝臓専門医の所在に興味を持つ率が増加する。一方で B 型肝炎・C 型肝炎の最新治療、標準予防策、針刺し事故時の対応、肝炎患者への対応、HB ワクチンの効果への興味は講習会受講の有無で変化しなかった (図13)。



肝炎の講習会受講で □ はあまり変化しない □ は増加する

図13 肝炎に関して興味がある内容

・講習会受講済みの歯科医師は今後も受講を希望する率が高い ($p=4.3 \times 10^{-10}$) (図 14)。

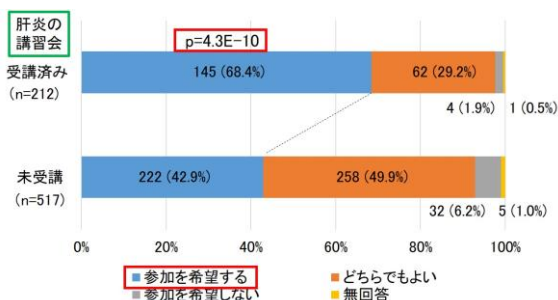


図 14 肝炎の講習会への参加希望

・講習会受講済みの歯科医師は肝炎患者さんを肝臓専門医・内科医へ紹介する率 ($p=6.0 \times 10^{-3}$)・紹介したいと考える率 ($p=6.3 \times 10^{-9}$) が高い (図 15)。

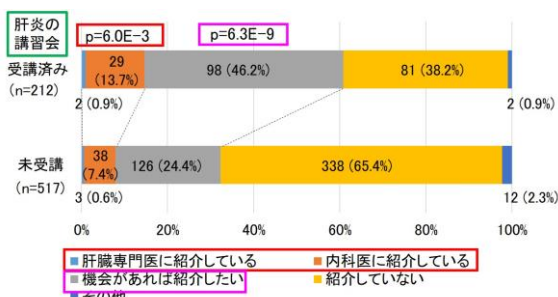


図 15 肝炎患者さんを紹介しているか

・講習会受講済みの歯科医師は学術部作成の資料「針刺し事故マニュアル」を適切に活用している率が高い ($p=1.4 \times 10^{-6}$) (図 16)。

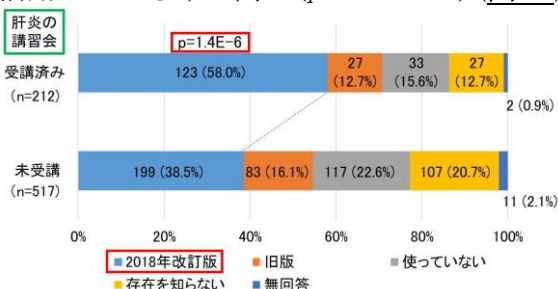


図 16 針刺し事故マニュアルの使用

以上より、肝炎に関する講習会は歯科医師の的確な行動に結びついていることがわかった。

4) 愛知県歯科医師会・研究班主催、愛知県共催による「令和3年度愛知県肝 Co 養成講習会」の開催とアンケート調査 (要点のみ)

・本講習会を受講した 159 名の職業は、歯科医師 94 名 (59.1%)・保健師 15 名 (9.4%)・医師 17 名 (10.7%)・医療事務 9 名 (5.7%)・看護師 7 名 (4.4%)・その他 17 名 (10.7%) であった。

・アンケートへの回答率は 91.2% (145/159) であった。歯科医師 90 名・歯科領域以外で働く受講者 49 名を比較した (歯科領域で働く歯科医師以外の受講者 20 名は除外)。

・歯科領域以外で働く受講者と比較して、歯科医師はより多く「日常診療で肝疾患患者を担当している」と回答した (表 2) ($p = 0.001$)。

担当の有無	歯科医師(n=90)	歯科領域以外の受講者(n=49)	p値
担当している	74 (82.2%)	27 (55.1%)	0.001

表 2 日常診療で肝疾患患者担当の有無

・肝 Co 講習会を通じて知識・理解が深まった内容として、歯科医師はより多く「肝 Co としての役割」と回答した (表 3) ($p = 0.047$)。

内容	歯科医師 (n=90)	歯科領域以外の受講者 (n=49)	p値
ウイルス性肝炎に関する基礎知識	84 (93.3%)	41 (83.7%)	0.13
肝炎治療・HBワクチンに関する基礎知識	69 (76.7%)	37 (75.5%)	0.88
脂肪肝・アルコール性肝疾患	67 (74.4%)	33 (67.3%)	0.49
肝炎医療コーディネーターとしての役割	54 (60%)	20 (40.8%)	0.047
標準予防策の重要性	49 (54.4%)	29 (59.2%)	0.72
肝疾患患者との関わり	45 (50%)	19 (38.8%)	0.28
肝疾患患者に対する差別偏見問題	47 (52.2%)	33 (67.3%)	0.12
愛知県の肝炎政策について	44 (48.9%)	31 (63.3%)	0.15
愛知県における肝炎ウイルス検査の現状	39 (43.3%)	24 (49.0%)	0.65

表 3 肝 Co 講習会を通じて知識・理解が深まった内容

・地域で行いたい肝 Co としての活動として、歯科医師はより多く HB ワクチン接種勧奨を挙げた (表 4) ($p < 0.001$)。

内容	歯科医師(n=90)	歯科領域以外の受講者 (n=49)	p値
HBワクチン接種勧奨	70 (77.8%)	18 (36.8%)	< 0.001
家族・友人・地域住民への肝炎知識の伝達	60 (66.7%)	32 (65.3%)	0.87
講習会や勉強会の開催	20 (22.2%)	6 (12.2%)	0.22
外来診療	0	1 (2%)	0.76
肝炎検診の受診勧奨	0	1 (2%)	0.76
陽性者へのフォローアップ事業の案内	0	1 (2%)	0.76

表 4 肝 Co として地域で行いたい活動

・本講習会を受講した歯科医師 94 名が新たに肝 Co に認定されたため、愛知県内の職種別肝 Co 数で歯科医師が最多となった (図 17)。

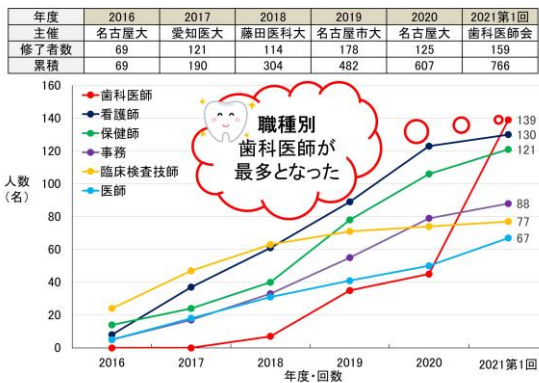


図17 愛知県での肝Co養成講習会開催と職種別肝Co数

D. 考察

2017年のアンケート調査を通して、歯科医師は保険制度上、自施設（歯科クリニック）で肝炎検査の実施が困難であるため、患者への問診・初診時の問診票からウイルス性肝炎を含む既往疾患の情報を入手していることがわかった。

2020年度に行った愛知県歯科医師会員を対象としたアンケートの結果から、肝炎に関する講習会は歯科医師の啓発に有効であることが分かった。一度参加することで継続して参加したいと思われるため、今後繰り返すことでさらに効果が期待できる。また、肝炎の講習会で講師ができる歯科医師を養成することも有効な手段である。

愛知県では、歯科医師会主導で肝炎啓発事業を開始した2018年度からの3年間で、歯科医師49名が肝Coに認定された。肝炎啓発事業の効果判定のアンケート調査（2020年7月実施）に回答した歯科医師の18.8%（170/902）が、肝Co養成講習会への参加を希望した。そのため初めての試みとして、愛知県歯科医師会・研究班主催、愛知県共催で肝Co養成講習会を開催した。

歯科医療現場では日頃から徹底した感染予防策を行い、新型コロナウイルス感染症に対しては更なる対策を講じることで、歯科医療を通じての新型コロナウイルス感染拡大の報告がないという結果を得ている。

これまで適切な感染予防策を実践し、日常診療で肝疾患患者と関わる機会が多い歯科医師が肝Coとなり、HBワクチンの接種勧奨をはじめとする肝炎の指導を行うことは合理的である。肝炎患者が差別・偏見を感じた場所として39.3%が歯科医院を挙げているが、歯科医師が正しい知識を発信することで、肝疾患や肝炎患者への差別や偏見の解消につながることを期待できる。厚生労働省から発出された通知文には、肝Coの役割として肝炎への理解の浸透、肝炎患者やその家族からの相談への助言、肝炎ウイルス検査受検勧奨などを定めるよう記載されている。歯科領域のリーダーである歯科医師によるHBワクチン接種に関する正しい情報の普及は、肝Coの新しい役割となる。

2020年度の時点で歯科医師が肝Coに認定されているのは、全国で5都道府県に過ぎない。愛知県歯科医師会と研究班は、2022年度も肝Co養成講習会を企画し、養成された肝Coのスキルアップも計画している。今後、愛知県歯科医師会から他の都道府県歯科医師会へ肝Co養成講習会を周知し、受講者を受け入れる予定である。

歯科領域の指導的立場である歯科医師が肝Coとして果たすべき役割を知り、歯科領域や地域での感染対策を中心とした肝炎啓発を行う。その契機となりうる肝Co養成講習会の新しい目的を提案し、全国での水平展開を期待したい。

E. 結論

愛知県では、愛知県歯科医師会が中心となり歯科領域、特に歯科医師への肝炎対策に着手し、3年が経過した。今年度は、愛知県歯科医師会と研究班の主催による肝Co養成講習会を開催した。今後も本事業を継続することで、さらなる効果が期待できる。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

・これまで愛知県歯科医師会ではHBワクチン2回接種を想定して、その費用の一部を助成してきた。愛知県歯科医師会と相談し、歯科領域に従事者が正しいスケジュールでHBワクチンを受けられるよう、2021年4月から費用助成対象に関する文言を「HBワクチンを3回接種した場合」と変更した。

・令和3年度愛知県肝Co養成講習会の開催に際し、愛知県歯科医師会とともに、日本歯科医師会生涯研修事業の研修単位を取得可能に、歯科初診料の「注1」に規定する施設基準（歯初診）に該当する講習会となるよう調整した。

<研究活動に関連した実務活動>

・県歯科医師会が主催する学術担当会員・郡市区歯科医師会長を対象とした講習会、郡市区歯科医師会が主催する会員を対象とした講習会の講師として、肝炎の正しい知識の普及に努めている。

G. 研究発表

1. 発表論文

- 1) Hagiwara S, Kusumoto S, Inoue T, Ogawa S, Narita T, Ito A, Ri M, Komatsu H, Suzuki T, Matsuura K, Yagi S, Kaneko A, Aoyagi K, Iida S, Tanaka Y. Management of HBV reactivation in patients with resolved HBV infection based on high-sensitive HB core-related antigen assay. *Hepatol Res.* 2022. Doi: 10.1111/hepr.13761.
- 2) Watanabe T, Inoue T and Tanaka Y. Hepatitis B core related antigen and new therapies for hepatitis B. *Microorganisms.* 2021; 9: 2083. doi: 10.3390/microorganisms9102083.
- 3) Inoue T, Yagi S and Tanaka Y. The reply to the correspondence entitled

“Understanding HBcrAg components helps the better interpretation of clinical HBcrAg assay results” by Hong, X. and Hu, J. *J Hepatol.* 2021; 75: 998-999.

- 4) Inoue T, Matsui T and Tanaka Y. Novel strategies for earlier diagnosis of HBV reactivation. *Hepatol Res.* 2021; 51: 1033-1043.
- 5) Inoue T, Kusumoto S, Iio E, Ogawa S, Suzuki T, Yagi S, Kaneko A, Matsuura K, Aoyagi K and Tanaka Y. Clinical efficacy of a novel, high-sensitivity HBcrAg assay in the management of chronic hepatitis B and HBV reactivation. *J Hepatol.* 2021; 75: 302-310.
- 6) 井上 貴子、内堀 典保 歯科医師が主導する新しい肝炎対策の提案～愛知県歯科医師会の挑戦とその成果～ *日本歯科医師会雑誌* 2022年第74巻11号1035-44
- 7) 井上 貴子、田中 靖人 HBV再活性化の新たな展開と早期診断を可能にするバイオマーカーの開発 トピックス:肝胆膵疾患の検査 up to date *日本臨床検査医学会誌* 2021; 69: 752-760.
- 8) 井上 貴子、加藤 正美、浅田 一史、竹内 克豊、根来 武史、梶村 豊彦、河合 正、是永 匡紹、内堀 典保 歯科の特性に着目した愛知県歯科医師会主導での新しい肝炎対策とその成果 *肝臓* 2021; 62: 588-589.
- 9) 井上 貴子、田中 靖人 急性ウイルス性肝炎 *臨床検査* 2021; 65: S614-618.
- 10) 井上 貴子 おもしろくてためになる!?「臨床検査」のおはなし *名市大ブックス5 医療の知識で自分を守る～心臓・膵臓・前立腺ほか～* 2021; 114-125.

- 11) 井上 貴子、田中 靖人 B型慢性肝炎の管理に関わる新規バイオマーカーの開発と実用化 医療検査と自動化 2021; 41: 3-12.

2. 学会発表

- 1) Inoue T and Tanaka Y Clinical application of a novel, high-sensitivity HBcrAg assay - the management of chronic hepatitis B and HBV reactivation. 8th Taiwan-Japan-Korea Research Symposium on Hepatitis B Virus Jun. 20, 2021.
- 2) Inoue T, Kusumoto S, Iio E, Ogawa S, Suzuki T, Yagi S, Kaneko A, Matsuura K, Aoyagi K, Tanaka Y Clinical importance of a new, high-sensitivity HBcrAg assay for monitoring chronic hepatitis B and HBV reactivation EASL The International Liver Congress, Jun. 23-26, 2021.
- 3) 井上 貴子、平山 達也、菊川 拓哉、古橋 完美、松浦 健太郎、藤原 圭、是永 匡紹 愛知県内市町村での肝炎医療コーディネーター配置の試み 肝臓 2021; 62: A232.
- 4) 伊藤 千恵子、古田 隆子、井上 貴子、松浦 健太郎、藤原 圭 当院における肝疾患相談室の活動報告と課題 日本消化器病学会雑誌 2021; 118: A262.

3. その他

啓発資材

- *愛知県歯科医師会肝疾患連携ピンバッジとメッセージカード 2021年6月
- *愛知県歯科医師会肝疾患連携付箋紙 2022年3月

啓発活動

- 1) 井上 貴子 ウイルス性肝炎のトピックスと医科歯科連携に向けた新しい試み

三重県保険医協会歯科学術研究会
2021年11月28日 三重県津市

- 2) 井上 貴子 「愛知県における肝炎ウイルス検査の現状」、「肝疾患患者に対する差別偏見問題「ウイルス肝炎の感染経路及びウイルス肝炎の感染性についての理解度に関するアンケート調査（八橋弘先生作成）」より考える」 令和3年度愛知県肝炎医療コーディネーター講習会 2021年9月12日 愛知県名古屋市・Web開催
- 3) 井上 貴子 今なら間に合う！本当に怖い脂肪肝 令和3年度日本肝臓学会 肝がん撲滅運動 市民公開講座 名古屋市立大学病院 2021年8月 録画開催
- 4) 井上 貴子、村松 直子 知っておこう！肝疾患 予防しよう！ロコモ 名古屋市立大学病院 肝疾患センター 第1回肝臓病教室 2021年7月 録画開催

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし